

# インマヌエル中目黒キリスト教会

## 2014年2月9日聖日礼拝

---

使徒の働き連講 (22)

「喜びつつ旅路を」

使徒の働き

8章32 - 40節

竿代 照夫 牧師



# 聖書朗読

## 新約聖書

### 使徒の働き8章32 – 40節

聖書本文は新改訳聖書第三版  
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp223~/ 第三版の聖書はp244~

32 彼が読んでいた聖書の箇所には、こう書いてあった。「ほふり場に連れて行かれる羊のように、また、黙々として毛を刈る者の前に立つ小羊のように、彼は口を開かなかった。

33 彼は、卑しめられ、そのさばきも取り上げられた。彼の時代のことを、だれが話すことができようか。彼のいのちは地上から取り去られたのである。」

34 宦官はピリポに向かって言った。「預言者はだれについて、こう言っているのですか。どうか教えてください。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか。」

35 ピリポは口を開き、この聖句から始めて、イエスのことを彼に宣べ伝えた。

36 道を進んで行くうちに、水のある所に来たので、宦官は言った。「ご覧なさい。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何かさしつかえがあるでしょうか。」

38 そして馬車を止めさせ、ピリポも宦官も水の中へ降りて行き、ピリポは宦官にバプテスマを授けた。

39 水から上がって来たとき、主の霊がピリポを連れ去られたので、宦官はそれから後彼を見なかったが、喜びながら帰って行った。

40 それからピリポはアゾトに現れ、すべての町々を歩いて福音を宣べ伝え、カイザリヤに行った。

# 説教

使徒の働き連講 (22)

「喜びつつ旅路を」

使徒の働き8章32－40節

竿代照夫 牧師

主テキスト：

「ピリポは宦官にバプテスマを授けた。水から上がって来たとき、主の霊がピリポを連れ去られたので、宦官はそれから後彼を見なかったが、喜びながら帰って行った。」

(使徒8：37－38節)

A. 「『苦しむ僕』とはだれ？」  
(32-34節)

1. 宦官の帰り道：巡礼の後、聖書を読みつつ
2. 伝道者ピリポの接近：宦官は導きを求める
3. 聖書箇所：イザヤ53：7-8  
(ギリシャ語訳)
4. 宦官の素朴な質問：  
「苦しんでいる僕は誰のこと？」

## B. 宦官の信仰告白とバプテスマ (35-39節)

1. ピリポの解説
  - ①人間は罪人
  - ②「主の僕」が罪の身代わりに苦しむ
  - ③ナザレのイエスこそ「主の僕」
  - ④復活し、今も生きておられるイエス
2. 宦官のバプテスマ志望
3. ピリポの確認：「心底から信じるか？」
4. バプテスマ式
5. ピリポの消失と宦官の帰路



## C. ピリポと宦官、その後（40節）



1. ピリポの  
伝道旅行と  
カイザリヤ定住  
(21：8－9)

## 2. 宦官のその後

：（多分）コプト教会の基



おわりに：  
私たちも、「喜びながら」家路に着こう